



AV&IT標準化委員会 次世代人材育成プログラム

研修での収穫と改善提案

平成27年1月22日

ソニー株式会社

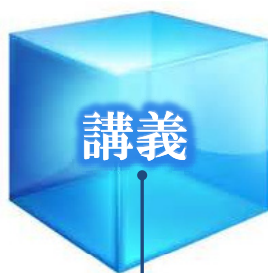
小出 啓介



実践的プログラム構成




- 09/25 AV/IT標準化委員会
- 10/22 TC 100 国内委員会(欠席)
- TA 国内委員会




- 7/10：IEC国際標準化研修 入門編(受講済のため不参加)
- 8/18：IEC国際標準化研修 中級編(受講済のため不参加)
- 8/25：オリエンテーション
- 9/05：プロセス学習, ツール学習, 課題逆引き等
- 10/2：模擬演習, 課題逆引き, 標準化事例等
- 10/3：模擬演習, 課題逆引き等



- TC 100 AGM
- TC 100 AGS
- TC 100 Plenary
- TC 100 TA Meetings




研修での収穫




- 講義、国内委員会への参加、IEC東京大会への参加というパッケージでの体験を通じて、教科書からは得られない国際標準化の知識やスキルを身に着けることが出来た。
- 講義だけでなく、実際の会議の場に参加することで、現場を知り、**実務レベルで活かせる知識・スキルと経験に裏付けられた自信**を得ることが出来た。
- 国内外のキーパーソンとの接点を持ち、今後の標準化活動に活かせる人脈を形成することが出来た。

次世代人材育成プログラム

3



標準化の入り口として



- IECにおける標準化プロセスが分からない。
- IECにおける略語・専門用語が分からない。
- 国際会議での作法が分からない。
- 仲間や人脈を作りたい。
- 議長・幹事・PLの枠割や義務は？
- 求められるスキルや知識を得たい。

- 標準化初心者が自効努力のみで解決するには、多くの経験と時間を要する。
- 研修によって：
 - ・必要な時間を大幅に軽減！
 - ・解決するための糸口を得ることが出来る！

次世代人材育成プログラム

4

IEC 特に印象に残ったこと(1) JEITA

「課題逆引き」

- 講師陣の実経験に基づく実用的なノウハウ集
- 行間には、講師が伝ようとしている熱い思いが込められている。

講師から直に経験談を聞くことで、その情景をイメージしながら、理解を深めることが出来た。

質問	Questions	Answer
1	NPを主催したいが実行するプラットフォームの種類のレベルの文書が必要か?	IEC では、事務局側を主として標準委員(NP)に入学認定は標準の組織を認めて開催することができなくともソフトウェア(機能)を拡張した文書を行う場合があります。また、ハードウェアにも対応するを認めますが、プレゼン資料や自発案でもNP機能が搭載です。
		TC 100 では、NP 採択の経験、JIS規格との2/3 類似があり、NP に移行された CD が技術的に match することを前提とするが JIS 規格として 2012 年以降、IEC 規格に沿うように 3ヶ箇かパートを修正の上全編を自編して適用している。目的は、market での市場を把握し、Avant 標準化委員会の 100 の実務範囲を縮小し、TC 100 スコープ内の標準化の 100 の場合、標準化委員会下の AGS 対応。または各 TA 及び Avant 標準化委員会の事業、思想的には、標準委員会の承認を経てから、TC 100 標準委員(JEITA)が TC 100 国際標準に提出し、国 Remarks from the TC 7A officers を追加した標準規格を提出する事になります。
		IEC では標準化の各段階を Stage と呼んで Code という番号が付けられています。事務局 code 84 00 であるため事務局(Preliminary) of ジェットを Stage 0 project と呼んでいます。
		TC 100 では、メンバー間からの標準化内容を広げ活発化する目的で 2011 年総会から AGS 準 Session と名づけた新しいスキームを開始し、Session での議論を集約するための stage 0 sori

IEC 特に印象に残ったこと(2) JEITA

「実例を用いたプロセスの学習」

- 標準的なプロセスを理解した上で、TC100における実プロジェクトに基づくプロセスを理解した。
- 今後の活動のリファレンスとして活用できる。
 - ・ どのような会議で承認を得る必要があるのか?
 - ・ そのためにどの程度の期間や準備が要るのか?



特に印象に残ったこと(3)



「標準化事例の紹介」

- 過去の標準化事例を単に紹介するだけでなく、その価値や意義、また、活動における障害要因やその解決手段などを知ることが出来た。
- 講師の方々は、IECにおけるキーパーソンであり、そのような方々との面識を得る機会になった。



特に印象に残ったこと(4)



「模擬演習」

- 過去実在プロジェクトを疑似的に再現させ、「もし、自分がその場にいたらどう振る舞うのか？」を常に考えながら、会議を進行していくというユニークな手法での演習であった。
- 模擬演習を体験したことで、その後のIEC東京大会へのオブザーバ参加での議長やコンビーナの行動や対応を「もし、自分だったら？」という視点で見ることが出来た。



IEC 次世代若手育成プログラム vs ヤンプロ		JEITA
	次世代若手育成プログラム	YPJ(ヤンプロ)
研修の性質	<ul style="list-style-type: none"> 現場での標準化業務に直接的に活かせる実践的な知識・スキルを得ることが出来るプログラム 	<ul style="list-style-type: none"> 標準化に限定されない広い範囲で活用できる知識、マインドセット、スキルを得ることが出来るプログラム
学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> IEC TC 100にフォーカスしたプロセス、実例学習、模擬演習等 	<ul style="list-style-type: none"> 交渉術、会議術、闘争術、ビジネスマインド、組織論、標準化機関の事業内容、標準化戦略、知財戦略、英語力強化等

相乗効果！
 (趣旨の異なるプログラムであるため、両方に参加することで、多面的に成長することが出来る。)
 ヤンプロにて、標準化ビジネスを鳥瞰的・俯瞰的に理解し、次世代若手育成プログラムで、現場での実践的な知識やスキルを獲得することが出来る。

次世代人材育成プログラム 9

IEC 模擬演習に対する考察		JEITA
<ul style="list-style-type: none"> ● 講師と研修生間で活発な意見交換が出来た反面で、研修生間のインタラクションが乏しい。 (講師と研修生間でコミュニケーションを完結させるケースが多かった。) ● 当事者双方の交渉と妥協により、結論や次の方向性を導き出すといったケーススタディが少なかった。 (Editorialに関するコメント対応が多かった。) ● 参加者の立場や状況が定義されておらず、自分の立場や相手のそれを踏まえた対応が十分に出来なかった。 (交渉においては相手の立場や状況を理解しておくことが重要) 		

次世代人材育成プログラム 10



模擬演習に対する提案



■ アプローチ案 概説

- 予め、参加者各々の立場を定義する。
(模擬演習の前に講師・事務局側にて定義する。)
- 参加者は、予め、議論対象となる案件(NPの内容、CD/CDVの内容)の概要を把握しておく。
- 研修生は、対象過去事例に基づいて、NP投票期間中に提出されたコメントあるいはCD/CDV投票期間中に提出されたコメントに基づくコミュニケーションを行い、その対処方法を定める。
- 講師は、鳥瞰的に議論を観察し、講義終了後に、各々の参加者に改善のためのアドバイスをを行う。
- 模擬演習終了後に、研修生間での意見交換を行う。
(模擬演習を通じて得たファインディングや改善を要するポイントなどを共有する。他者批判はせず、会議をより良く運営するための提案や意見を述べる。)



有難うございました。



次は、プログラムで学んだことを活かし、標準化活動を行っていきます。

